

令和3（2021）年度
事業報告書

学校法人 二階堂学園

目 次

I. 令和3年度事業報告	1
日本女子体育大学	5
日本女子体育大学附属二階堂高等学校	7
我孫子二階堂高等学校	9
日本女子体育大学附属みどり幼稚園	10
二階堂幼稚園	13
日本女子体育大学附属保育園	15
II. 財務の概要	16

I.令和3年度事業報告

令和3年度は、コロナ禍の中で、各学校・園とも感染防止に十分な配慮を行い、様々な工夫をしながら諸活動を展開した。7月下旬から9月上旬にかけて開催された第32回オリンピック競技大会（2020/東京）には、本学園から大学の在學生と卒業生の2名が新体操の団体選手として出場して8位入賞を果たし、6名の大学教職員が大会のスタッフとして関わった。また、2月に中国・北京で開催された第24回オリンピック冬季競技大会には、大学の教員がスピードスケート競技の監督として参加した。

施設設備等の整備事業は、学園創立100周年事業として、烏山キャンパスで（仮称）創立100周年記念体育館の建設を進め、地下の掘削工事が完了し、地下躯体の鉄筋工事及びコンクリート打設工事に着手した。その他、大学図書館のエレベータ防災対策工事、附属二階堂高等学校の放送設備改修工事、我孫子二階堂高等学校の東館2階女子トイレ改修工事、各キャンパスの空調設備更新工事等を実施した。また、大学生のスポーツ活動の場として活用するため、世田谷区と共同で第一生命保険(株)所有のグラウンドの賃借を開始し、環境整備のための施設改良工事を実施した。

以下は、各設置校・園の事業報告の概要である（各校・園の事業報告詳細は5ページ以降参照）。

<日本女子体育大学>

改組・新学科開設2年目となり、旧学科・専攻と併存しつつ新学科体制が進行するところであるが、コロナ禍への様々な対応に加えて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の関連で、前期の学事予定を例年から大幅に変更し、7月22日までに実質的な授業期間を終えるなど異例の年度となった。昨年度末に予定外の教員異動が発生したが、補充採用人事により対応している。

教育活動では、コロナ禍においてもできるだけ学生が実感を持てる学修機会を設けるよう努めた。学生募集については、昨年度の結果を踏まえて早急に改革を行い、4学科中3学科では入学定員を充足したが、学部全体としては定員充足に至らなかった。

<日本女子体育大学附属二階堂高等学校>

令和3年度を学校改革元年と位置付け、①新教育目標の施行 ②コースの再編 ③N-SALCの運用 ④生徒募集の強化を柱とした学校経営に取り組んだ。N-SALCの運営については、新たな特色として内外に示し、英語検定合格者の増加にもつながった。生徒募集に関しては、新コースの広報活動や教職員の意識改革に取り組んだ結果、アクセス数や受験者数は増加したが、入学生徒数は募集定員を大きく下回った。次年度に向け入試広報活動の総括と、コースにおけるコンテンツの構築や単願生徒の獲得に向けた方向性を再確認した。また、コロナ禍による影響で教育計画を変更する場面が生じたが、生徒の安全・安心を第一に適切に対応することができた。

<我孫子二階堂高等学校>

コロナ禍により、ICT教育及び対面授業を状況に応じて実施した。生徒主催の学校行事（文化祭・体育祭・球技祭）は実施、修学旅行等の外部に参画する行事は中止した。進学では、一般入試の合格者が2桁、医療・看護系の進学者も2桁となり、本校の進学の基盤ができ始めた。

生徒募集及び広報活動は、年度当初から中学校訪問や外部の進学相談会・説明会を工夫して実施し、オンライン等の相談も増やして実施した。夏・秋の学校主催の説明会が例年並みの参加者数となり、志願者獲得に繋がった。東葛地区公立高校や茨城県・埼玉県公立高校の追加募集が多く、併願の歩留率が下がったことが影響し、入学定員割れとなった。

<日本女子体育大学附属みどり幼稚園>

保育活動としては、園児が主体的に活動できるように計画し保育の質向上に努めた。その結果発言力や思考力、探求心がさらに増し、友達と共に積極的に生活するようになった。コロナ禍での保育となったが、園児に経験、体験してほしいことを教員間で話し合い試行錯誤しながら行った。食育では、

栽培を通し子どもの感性豊かな感情の育ちがみられ、嫌いな野菜も食すことができるようになった。保護者も一緒に生長を楽しんでいた。預かり保育では、縦割り保育の良さを引き出せる保育、また家庭的な雰囲気作りを心がけた。未就園児教室では、感染対策を取りながら園児獲得につながるよう行ったが、数名他園に行ってしまったので、さらなる園児募集の対策が必要と考える。

<二階堂幼稚園>

保育活動では、「知育・体育・徳育・食育」を4つの柱とし、遊びや生活、活動を通して、各分野における子ども達の力を伸ばし、高めていくよう努めた。知育では、6月より年長組が一人1台タブレットに楽しく触れながら、プログラミングを行い、興味を持たせることができた。教員は研修に励み、プログラミング教育の指導力向上に努めた。運動では、日本女子体育大学・森田陽子教授の指導を受け、運動遊びの充実を図ると共に、小学館「幼児と保育」に運動遊びを連載することで、園のアピールに繋がった。募集活動では、保育説明会でプロジェクターを用いて「見える化」を図り、またホームページやInstagramに積極的に保育の様子を公開し、より具体的に幼稚園を知っていただくことに努めた。回数を増やした園庭開放で早めに次年度の未就園児教室募集の声かけをし、園児獲得に繋げる取り組みを行ったが、後半はコロナ禍により中止となってしまった。コロナの状況を見ながら、できるだけ教育実習生を受け入れ、次世代を担う保育者の養成に貢献することができた。

<日本女子体育大学附属保育園>

認可保育園として2年が経ち、コロナ禍の状態は続いているが、各クラス工夫して保育をすすめることができた。子ども一人ひとりと向き合い、発育発達に応じた保育を行うとともに、夏まつり・運動会・展覧会・発表会などの行事を通して、子どもの成長を保護者と共有し合うことができた。日本女子体育大学幼児発達学専攻の学生や附属二階堂高等学校保健福祉コースの生徒、職場体験を希望する東京都の学生を受け入れ、附属保育園の保育について学ぶ機会を設けた。第1回卒園式を行い、はじめての年長児を小学校へ送ることができた。

以上

各校・園の事業報告詳細（5ページ以降）の自己評価については、達成度を以下の基準で判定したものである。

- [A] 事業計画作成時に想定した目標を達成できた
- [B] 概ね目標を達成できたが一部に不十分な事項を残している
- [C] あまり成果を挙げるができなかった又は何らかの支障があり実施できなかった

1. 設置する学校の名称及び入学定員と学生・生徒・園児数

学 校 名 (所 在 地)	学部・学科等名	開設 年度	入学定員	収容定員	R3.5.1 現員
日本女子体育大学 〒157-8565 東京都世田谷区北烏山 8-19-1 学長 深代 千之	大学院 スポーツ科学研究科修士課程	年度 H5	人 15	人 30	人 30
	体育学部	S40	-	640	660
	運動科学科(R2 募集停止)	H11	-	440	446
	スポーツ健康学科(R2 募集停止)	H11	-	440	403
	スポーツ科学科	R2	220	440	214
	ダンス学科	R2	100	200	349
	健康スポーツ学科	R2	180	360	75
	子ども運動学科	R2	40	80	
	計		555	2,190	2,177
	日本女子体育大学附属二階堂高等学校 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-17-22 校長 工藤 公彦	全日制課程普通科	S23	200	600
我孫子二階堂高等学校 〒270-1163 千葉県我孫子市久寺家 479-1 校長 今井 正和	全日制課程普通科	S42	260	780	462
日本女子体育大学附属みどり幼稚園 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-17-22 園長 桐川 敦子		S22	88	280	258
二階堂幼稚園 〒270-1163 千葉県我孫子市久寺家 479-1 園長 志田 一美		S51	90	270	226
日本女子体育大学附属保育園 〒156-0055 東京都世田谷区船橋 7-20-16 園長 太田 よし美		R2		93	59

2. 令和3年度 応募・合格・入学者数

学 校 名	学部・学科等	入学定員	応募者数	合格者数	入学者数	備 考
日本女子体育大学	スポーツ科学研究科	15	19	19	16	
	大学院小計	15	19	19	16	
	スポーツ科学科	220	294	279	180	
	ダンス学科	100	232	122	110	
	健康スポーツ学科	180	314	299	177	
	子ども運動学科	40	49	45	31	
	学部小計	540	889	745	498	
	大学合計	555	908	764	514	
日本女子体育大学附属二階堂高等学校		200	97	95	65	
我孫子二階堂高等学校		200	1,300	1,247	146	
日本女子体育大学附属みどり幼稚園		88	88		73	
二階堂幼稚園		90	63		60	
日本女子体育大学附属保育園					13	

3. 役員・評議員・教職員（R3.5.1 現在）

【役員】

理事	理事長	石崎 朔子		
	常務理事	大西 史記	深代 千之（学長）	
	理事	今井 正和	小海 隆樹	桂 眞弓
		永井 多恵子	浅田 眞弓	永島 惇正
		宮嶋 泰子		
監事	常勤監事	伊勢呂 裕史		
	監事	西住 崇		

<令和3年度役員賠償責任保険契約の状況>

(1) 団体契約者	日本私立大学協会
(2) 被保険者	記名法人…学校法人 二階堂学園 個人被保険者…理事、監事、評議員
(3) 補償内容	
① 役員（個人被保険者）に関する補償	法律上の損害賠償金、争訟費用等
② 記名法人に関する補償	法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等
(4) 支払い対象とならない主な場合	法律違反に起因する対象事由等
(5) 保険期間中総支払限度額	5億円

【評議員】

小海 隆樹	桂 眞弓	浅田 眞弓	森田 陽子
橘田 隆志	磯部 美知子	小池 匠	志田 一美
太田 よし美	星谷 速人	柳澤 康彦	寺山 喜久
廣田 博子	高橋 和子	加藤 明	鈴木 貴美子
瀬戸井 嘉美	福島 幸子	市川 真知子	桐川 敦子
工藤 公彦	桑島 俊彦	宍戸 良子	鯛谷 和代
福岡 孝純			

【教職員（専任）】

大学教員	86名
高等学校教員	58名
幼稚園教員	30名
保育園保育士	11名
職員	76名

4. 管理運営の概要（理事会等の開催状況）

会議名	令和3年度開催
理事会	5回
評議員会	5回
常務理事会	17回
学園連絡会議	8回

<日本女子体育大学>

区分	事項	結果	自己評価
教育	4 学科開設後の AC 対応（教員人事、カリキュラム整備）	予定外の退職教員に関する補充採用を適切に行い、大学設置基準上の必要人数を担保しつつ、今後の補充採用計画を検討している。また、4 学科完成年度以後の学科構成・教員組織・カリキュラム改革等を検討する将来構想検討委員会を立ち上げ、10 年後の本学のあり方を検討している。	A
	大学院改革の推進	担当教員補充と新規科目開設によりカリキュラムの充実を図り、現職教員の大学院受入の方策としてハイフレックス型授業方式を開発し、令和 4 年度から運用を開始する。	A
	学長ガバナンスに伴う組織運営の改革	学長のリーダーシップの下、IR 推進委員会を中心に入試改革を実行し、令和 4 年度入学者選抜から実施している。また、全教員の教育研究業績データベースを開発し、ホームページ公表との連携を図った。	A
	コロナ禍における学生の学修の担保	前期当初から、講義科目はオンデマンド方式オンラインによる授業、演習科目は対面方式を原則とし感染の懸念がある場合はオンデマンド方式による授業、実技・実習科目は対面方式による授業で展開し、通学に対して不安が強く出席を控えたい学生には個別に補講等より対応した。後期も同様にオンデマンド方式と対面方式のハイブリッドにより予定の授業を完了した。	A
研究活動	教員の研究推進	文科省・科研費には、研究代表者は新規 3 件・継続 14 件、研究分担者は新規 4 件及び継続 10 件が採択された。また、科学研究費チャレンジ支援制度（挑戦研究費）を開発し、5 件の申請を承認した。	A
	FD 活動の充実	学部全体での FD 研修の他に、学科別 FD 研修を実施するための体制整備として予算を確保したが、実施は一部学科のみに留まっている。	B
募集及び広報活動	確実な入学定員充足を目指した入試制度の改革	総合型選抜では、I 期の募集人数を増やし、3 月にⅢ期の募集を設定した。学校推薦型選抜では、指定校推薦、同窓生教員推薦、附属・附設校推薦の出願条件を見直し出願しやすいように変更。一般選抜では、2 月の前期の試験方式を変更し A 方式の実技試験を共通化して 1 日で 4 学科とも実施するよう変更したほか、3 月に後期募集枠を設定し大学入学共通テストの成績による受験を可能にした。また併願パターンを増やし、より多くの出願者を確保できるよう図った。最終的な入学者数は、スポーツ科学科以外の 3 学科は入学定員を超える人数を確保できたが、学部全体では定員未充足となった。一方で、大学院は入学定員を大幅に上回る人数を確保できた。	B
	活発な学生募集イベントの展開	オープンキャンパスを年間 7 回計画し、感染対策を十分に準備して全て来場型対面方式にて実施した。他に、ちょこキャン（縮小型見学会）を年間 6 回実施し、健美祭と同時開催としてオンライン進学イベントを開催した。	A
	学生募集に繋がる大学主催事業の実施	毎年 8 月中旬に開催しているダンス・ワーク・セミナーを来場対面型で開催するよう計画したが、感染拡大状況のためオンライン受講形式に切り替えて開催した。	B
社会貢献・地域連携	大学主催事業の展開	① 保護者面談会：来校対面形式で開催できず代替にオンライン動画視聴を 4 月 28 日～5 月 18 日に実施した。 ② ダンスコンクール：来場審査ではなく映像審査により行い、受賞作品を 12 月 13 日～31 日参加校限定で Web 公	B

		開した。 ③ 人見絹枝杯陸上競技大会：3月26日(土)に世田谷区立総合運動場にて開催した。	
	地域交流事業	地域交流講座(秋期)を11月2日～3日に5講座、来校対面形式で開催した。	B
	総合型地域スポーツクラブ	ニチジョクラブの法人化・独立を進め、9月1日に一般社団法人として正式に設立した。	A
グローバル化	SDG's 関連事業の推進	学内設置冷水器への浄水器設置を完了し、マイボトル使用を推奨しペットボトルゴミ削減を図っている。	A

[特記事項]



○オープンキャンパス(学内ツアー)



○オープンキャンパス(個別相談)



○オープンキャンパス(体験授業)



○オープンキャンパス(体験授業)



○人見絹枝杯陸上競技大会

★ 日本女子体育大学 ★ 地域交流講座

令和3年深秋地域交流講座は、11月19日のみ開催。単日開催となります。

● ボールを僕ごとくエクササイズ
11月2日(水) 10:40-12:10
20歳以上の男女の初心者から上級者まで、ボールを使ったエクササイズを行います。ボールの種類や大きさ、重さなどによって、様々なエクササイズを行います。ボールを使ったエクササイズは、体の柔軟性を高め、姿勢を良くし、肩こりや腰痛の予防に効果的です。ボールを使ったエクササイズは、誰でも簡単にできるため、初心者から上級者まで、幅広い年齢層の方に参加いただけます。

申込費 1,500円
申込先 総合体育館

● ピラティス
11月2日(水) 14:00-15:30
ピラティスは、呼吸をコントロールしながら、体の深層筋を鍛えるエクササイズです。体の柔軟性を高め、姿勢を良くし、肩こりや腰痛の予防に効果的です。ピラティスは、誰でも簡単にできるため、初心者から上級者まで、幅広い年齢層の方に参加いただけます。

申込費 1,500円
申込先 総合体育館

● 健康呼吸法
11月3日(木) 10:40-12:10
呼吸器系を鍛え、免疫力を高め、健康な体づくりを行います。呼吸器系を鍛えることで、体の深層筋を鍛え、姿勢を良くし、肩こりや腰痛の予防に効果的です。呼吸器系を鍛えることは、誰でも簡単にできるため、初心者から上級者まで、幅広い年齢層の方に参加いただけます。

申込費 1,500円
申込先 総合体育館

● 大人のためのラクラックバレエ
11月3日(木) 11:30-13:00
クラシックバレエの基礎から、現代舞踊まで、幅広いジャンルのバレエを行います。バレエは、体の柔軟性を高め、姿勢を良くし、肩こりや腰痛の予防に効果的です。バレエは、誰でも簡単にできるため、初心者から上級者まで、幅広い年齢層の方に参加いただけます。

申込費 1,500円
申込先 総合体育館

● 0.1のび・さわが健康体操
11月3日(木) 14:00-15:30
誰でもできる簡単な体操を行います。体操は、体の柔軟性を高め、姿勢を良くし、肩こりや腰痛の予防に効果的です。体操は、誰でも簡単にできるため、初心者から上級者まで、幅広い年齢層の方に参加いただけます。

申込費 1,500円
申込先 総合体育館

申込方法
お電話でお申込みください（申込費は不要です）
受付時間：平日 10月11日(月)～22日(水)：平日(月～水) 9:00～16:30
申込先・お問い合わせ
日本女子体育大学 学務課
〒175-8565 東京都豊島区南池袋1-19-1
TEL 03-3520-0242
E-mail: chikik@wpc.ac.jp

Home | 活動情報 | ニチジョクラブとは | BLOG | 定款 | お問合せ

○地域交流講座

○ニチジョクラブ（ホームページ）

<日本女子体育大学附属二階堂高等学校>

区分	事項	結果	自己評価
教育プログラム	カリキュラム	本年度から施行された、新しい教育目標の具現化に向け積極的に教育活動を展開した。特に、ICT機器を導入した授業改善や、令和4年度からの新学習指導要領の完全実施に向けた、「総合的な探究の時間」の先行実施等、弾力的なカリキュラムを運用した。	A
	全コース	① 各コースのコンセプトに応じた教育活動は、生徒の専門的な深い学びにつながり、各自の進路選択に大きな影響を与えた。 ② コロナ禍にあり生徒の主体的な取組である学校行事や、コースごとの行事の中止や変更を余儀なくされた。 ③ D棟のICT機器の環境整備が進み、iPad(1学年)や電子黒板を活用した授業改善に取り組んだ。	A
	学校改革	① 1学年の特別進学コースやキャリアデザインコースの再編に伴うカリキュラムを新たに実践した。 ② 英語科とネイティブ講師を中心に、英語に特化した自立型学習スペース「N-SALC」の本格的な運用を開始した。 ③ 「自己申告書」を活用し、教科指導・生徒指導・分掌等の職務目標について、いつまで、どのように取り組み結果を出すのかを明確にさせ、3月に成果と課題を確認した。 ④ 観点別評価、評定を含むシラバスの再編集を実施した。	A
	特別講座	73名の対象生徒によるリメディアル講座や各種特別講座を計画したが、コロナ禍により放課後の講習は一時的に制限した。しかし、英語検定の取得に向けた対策講座はN-SALCを活用し成果につなげることができた。	B
	部活動の活性化	① 強化部や育成部への支援を継続した結果、新体操部は全国大会に出場し、ダンス部も文部科学大臣賞を受賞した。しかし、他の部は部員数の確保や魅力ある活動の継続など課題が残った。 ② 「保護者と教師の会」からの奨励金の支援があった。	B
福利厚生	安全指導	年末に放送設備の改修が終了し、避難経路の確認と避難訓練を実施した。訓練を実施したことにより、生徒の、自然災害に対する危機意識を高めることができた。	A

-7-

	事故防止対策	生活安全講習会は中止としたが、関係機関からの資料を活用し、事故防止の指導をクラスごとに実施した。特に、被害に遭わないための対応について繰り返し指導を行った。また、自転車通学者対象の自転車安全講習会は、法的な根拠に基づき事故防止への意識を高めた結果、今年度も交通事故は発生していない。	A
	退学者の防止	退学者防止は早期対応にある。しかし、欠席理由は多岐にわたり、マニュアルどおりにはいかないため対応には苦慮した。また、重大ないじめは発生していない。	C
研究活動	研修	新たな試みとして、教科横断型のリベラルアーツ教育と神田外語大学との高大連携事業であるラーニング・アドバイザー研修を2日間実施した。生徒との対話を通じた自律学習の促進と、学習アドバイジングの基礎的な知識やスキルを習得することができた。	A
生徒募集	広報活動	広告媒体の積極的な活用や組織的な訪問活動を継続的に取り組み、コースの再編やN-SALC開設等、学校改革の特色をPRしながら生徒募集を展開した。しかし、昨年度の急激な落ち込みもあり、回復には至っていない。また、アクセス者数は増加したが、各コースの教育理念や学びのプロセスなど、十分に浸透しているとはいえ、今後も、情報発信の資料となる学校案内の精査やホームページ・SNSの有効運用と訪問活動等を粘り強く進め、本校の認知度を向上させ単願における入学者の確保に努めることを確認した。	C
その他	高大連携事業	① 日本女子体育大学との連携の一環として「ニチジョ」を体験しよう」を計画し、講義と実技に参加させた。大学の学びを実体験し、専門分野に特化した知識や技能に触れることで、日女体大への進学意欲にもつながり貴重な体験となった。 ② 国士舘大学との教育交流を締結させ、次年度からの講義の聴講やデリバリー授業などの活動内容を確認した。	A
	教育活動への支援	「若桐会」と「保護者と教師の会」からiPadの寄贈があり、様々な教育活動において活用した。	

〔特記事項〕



iPadを活用した授業



ON-SALCの生徒たち



○文部科学大臣賞受賞のダンス部



○高大連携事業 2021
陸上競技：「跳ぶためのコツを教えます」



○高大連携事業 2021
「ジャズダンスをカッコ良く踊るコツを教えます」



○第 73 回卒業証書授与式

<我孫子二階堂高等学校>

区 分	結 果	自己評価
教育 進学 福利厚生	<p>2022 年度の新学習指導要領の新教育課程を千葉県学事課へ申請。カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー・ディプロマポリシーの検討を開始した。また、オンライン授業を実施し、リクルート「スタディアプリ無料期間」として主要5教科で行った。さらに課の見直しを繰り返し行ったが、朝学習については形を変えて実施することができた。</p> <p>進学対策としては、卒業生の43%が大学へ進学、短大・専門学校への進学を合わせると89%となった。コロナ禍の影響を考え、進学・就職指導に向けて個別相談をより多く実施し、さらに進路指導部中心に総合型選抜試験における面接指導をしっかりと行えた。また、全教員が行う小論文・志願理由書の書き方に伴う個別指導を行った。さらに医療系大学等の進学者が2桁となり、他の高校とは違う進学特色ができ始めてきた。</p> <p>コロナ禍において経済的理由でアルバイト希望者が増加した。校内に検温測定器2台設置、生徒用マスク配付、スクールバスの人数制限、食堂等のソーシャルディスタンスを実施し、さらに啓蒙活動として、養護教諭による保健室だよりの作成、臨床心理士によるカウンセリング等を実施し、教職員・生徒への啓蒙活動を行った。一方、保護者のカウンセリングが多くなりつつある。</p>	B
研究活動 地域連携 国際交流	<p>コロナ禍で研究・研修活動が制限される中、千葉県初任者研修や教科別研修には積極的に参加した。さらに、校内においてICT教育の研修としてMicrosoft Teamsやスタディアプリ等の使用方法等、教務部を中心に行った。事務職員の研修は、学校経理研究会等の経理研修等にオンラインで参加した。</p> <p>地域連携については、我孫子北まちづくり協議会との連携において、我孫子駅北口の美化活動について協議をしている。</p> <p>国際交流活動については、本校の国際交流事業を計画、検討するための臨時委員会を設置し、令和4年度の実施に向け交流学校の選定を開始した。</p> <p>最後に補助金については、新たに福祉教育推進校に認定されたことから、令和3</p>	B

	年度から3年間福祉教育の図書等を購入する補助金を獲得したが、コロナ禍のため、経常費補助金特別補助の教育改革推進事業分野においては一部事業実績が反映できなかった。	
入試募集及び広報活動	本年度も制限の多い広報活動の中、生徒獲得に向け最善の努力を尽くしたが、公立高校の入試動向に左右された結果、定員にはほど遠い数字の入学生となった。その中でも未開拓の地域からの入学生も出てきていて新たな生徒募集戦略の糸口が見え始めた。さらに本校の魅力のアピールを前面に出して第一希望者の割合を増やし、定員確保を目指す。	B

〔特記事項〕



○ICU 世界ジュニアアチアリーディング選手権大会出場 (3年生)



○我孫子ベースボールフェスティバル (野球部)



○全国高等学校軽音楽コンテスト千葉県大会準決勝出場



○関東大会出場 (柔道部)

<日本女子体育大学附属みどり幼稚園>

区分	事項	結果	自己評価
保育	カリキュラム	① 園児が主体的に活動するよう環境を作り、保育の質向上に努めた。特に行事の取り組みについて、園児が自ら考え発言できる環境作りをし、自分たちで作り上げていく楽しさを感じ発想力や協調性が養われ、また達成感を感じることができ成長が見られた。 ② 古くから伝承されてきた文化に対して、興味や関心を持ち、季節を感じられるような年中行事を取り入れた。	A
	食育	年長児を中心に季節ごとに野菜を植え、その生長について学年をこえて楽しみにし、保育の中に取り入れた。また給食で食したりすることで食育活動が広がり充実した。	A
	預かり保育	コロナ対策として学年ごとの生活が多い中、年長児が意見を出し合い作り上げた行事(お祭り等)に他学年が参加し、縦割り保育ならではの学びがあり、預かり保育における保育の充実が感じられた。また、おやつは保護者より別途費	A

		用をいただき園より提供した。手作りのおやつは保護者から好評であり、子どもたちにも希望を聞き、長期休み中におやつ作りを行い、食育活動にもつなげることができた。	
	大学連携	コロナ禍ではあるが、事前検査を行ってもらい保育者養成のための実習生を受け入れた。学生との直接的な授業協力は行うことができなかったが、学生の製作した玩具で子どもたちが遊び、感想や様子を伝え学びの場を提供した。	B
	安全対策	毎月防災訓練を行い、緊急時における避難の仕方等を教師間・園児たちと学び判断できるようにした。また、防犯対策として、警察の協力を得て園内研修・訓練を行い、侵入者に対する防犯の仕方や、園内の安全に関する改善箇所についてアドバイスをもらい、資質向上につなげた。また、門にテンキーを導入し安全対策に努めた。今年度は職員室の移動はなかったため、防犯カメラ移動等は行わなかった。	A
研究活動	実践研究	園児が「自ら学ぶ力」を発揮できるよう、主体的に活動できる環境作りを行い、教師間で保育の質を高められるよう園内研修を開催した。コロナ禍のため、感染対策を講じながらの行事においては、それぞれのクラス活動を充実させられるよう、共通認識を持ち課題を共有しながら保育にあたり、自己反省を生かしながら取り組むことができた。	A
募集及び広報活動	広報活動	① 見学会を午前午後の希望を取り数回開催したことで見学しやすい状況となり、園の様子や雰囲気伝えることができた。また、高校の体育館を借りて入園説明会を土曜日に行ったことで参加者が多くみられたが、今後も内容を検討する必要があるなどの課題も見えた。 ② 子育て支援事業（ぼけっと・手あそびうたランド）を、密にならないよう人数や保育場所を確保して実施した。また、保育内容を充実させ、給食試食会を設けるなど幼稚園生活を見通せるようにした。 ③ ホームページやブログの更新を心がけ、園の様子や保育内容等、情報を広く配信し、定員確保へとつながるようにした。 ④ 大きさ等を検討しチラシを作成、近隣や店舗等に掲示を依頼して、みどり幼稚園の保育についてアピールできるよう努めた。	B
社会貢献・地域連携	未就園児親子への支援	子育て支援事業（ぼけっと・手あそびうたランド）を通して、保護者同士の意見交換の場となるよう提供したが、コロナ禍のため思うように実施できなかった。	B
子育て支援	在園児保護者への支援	① 教育課程修了後から希望者に対して預かり保育を行い、専任教員を配置して、教育課程内の担任と連携しながら、家庭的雰囲気の中、安心してそれぞれの遊びを楽しむよう配慮した。また、園内で行っている課外教室への送り迎えをスムーズに行えるよう、教員同士で連携をとり安全に行った。 ② 新システム「コドモン」を導入し、同意を得た保護者の方へ、園児たちの保育活動の様子を写真で配信した。また、様々な情報連絡や保育料の納入にも利用し、保護者の負担が軽減され、円滑に進められるようになった。 ③ 保護者支援のためにカルチャー講座は、コロナ禍の状況により、ほぼ開催することができなかった。	B

[特記事項]



○自由あそび
まわりにある物を使い段差をつけ、
何度も失敗を繰り返しながらプロ
ックあそび。



○いきもの園
コロナ禍のため中止となった動物
園への遠足の代わりに、年長児が製
作しました。



○夏野菜の収穫
園の畑で育てた野菜を給食でいた
だきました。野菜スタンプの製作も
しました。



○縦割り保育
年長児が考えたお店屋さんで年少児がお買い物



○防犯訓練
北沢警察の方を講師として、防犯と安全につい
て研修・実技訓練を実施しました。



○まめまき
製作した三方に豆を入れ「鬼はそと！」
必死にまめを投げる子どもたち

<二階堂幼稚園>

区分	事 項	中 間 報 告	評価
教育（保育）	知育	学年ごとに立てたカリキュラムに基づき、年少は、点繋ぎ・一筆書き等、年中は、文字・数等の読み書き、年長は、ワーク・習字等を行った。また、各学年とも生活や遊びに即した文字・数への関心を高めた。実施したものは、学期末に持ち帰り、保護者に指導内容や進捗状況を知らせ、園児の成長度合いを共有した。 タブレットによるプログラミング教育は、機械到着の都合により、6月からの実施となったが、園児が楽しく操作し、興味を持たせることができた。さらに、ホームページ等に取り上げることで、園のアピールにも繋がった。	B
	運動	体育正課活動の内容やマラソン・ボール投げ・体操・しっぽ取りなどを保育の中に積極的に取り入れ、運動遊びを通して皆で楽しく体を動かして身体能力を高め、体力の向上を図った。 日本女子体育大学・森田陽子教授の指導を受け、運動遊びの充実を図ると共に、小学館「幼児と保育」の運動遊びに連載されることで、園のアピールに繋げることができた。運動能力測定を年2回行うことで、園児の運動能力の発達を知り、個々の体力の向上に繋げることができた。 保育中に教員がキッズアスレティックスを指導し、園児の運動能力の向上に努めた。	A
	食育	芋掘りの体験や学年ごとに野菜を育てることで、収穫をする喜びを感じ、食への興味関心を高めることができた。 また、給食の献立を通し、食品の成分や栄養素等を分かりやすく知らせている。	A
	徳育	生活や遊びの中で異年齢の関わりを持つことにより、優しさが芽生え、小さい子や友達に思いやる心を持って接することができるようになり、情操教育に繋がった。 園外保育や土手滑り、散歩等を通し、身の回りの自然に触れ、好奇心や探求心を持てるように育まれた。また、感じたことや考えたことを自分なりに表現する力が徐々に身に付いた。	A
研究活動	嗜好調査の実施 園内外研修	嗜好調査のアンケートを行い、園児の家庭での食事の実態や生活リズム・健康課題を知り、健康に繋がる食事の仕方や生活習慣・食事のマナー等を教え、食育指導を行ったことにより、給食の残食も少なくなった。 保育の質が高まるように、積極的に園外研修を受け、内容をまとめ、共有し、保育に生かしている。また、リトミックや体操等の園内研修を実施し、一人ひとりの保育指導力の向上に努めた。	B
募集及び広報活動	にこにこクラブの充実 ホームページとインスタグラムを使用した広報活動	次年度の未就園児教室の募集を早め、専任の教員を配置することで、より充実したカリキュラムを設け、昨年度に比べ園児獲得に繋げることができた。 ホームページとインスタグラムにより保育内容を公開する事で幼稚園を知ってもらい、幼稚園案内やチラシ・ポスターを配り、保育内容や未就園児が来園できる日程等を宣伝することで広報活動に努めた。 プロジェクターを用いて「見える化」した説明会等を行い、より園を知ってもらうことができた。	B
社会貢献・地域連携	園庭開放の充実	地域の親子の触れ合いの場として園庭開放を増やしたことにより、教員と関わりながら遊ぶことができ、保護者から	B

	<p>つくし野荘との交流</p> <p>小学校訪問</p> <p>実習生の受け入れ</p>	<p>の子育て相談を受けることができた。</p> <p>特別養護老人ホーム「つくし野荘」に訪問することが、コロナ禍で行うことができなかった。</p> <p>就学前の年長児の小学校訪問は、コロナで中止となったが、小学校からDVDが届き、学校生活の様子等を鑑賞し、小学校との連携に繋げた。</p> <p>コロナの感染状況を見ながら、積極的に教育実習生を受け入れ、実習の場を提供した。仕事の内容を体験し、幼稚園とはどんな教育施設かを学んでもらうことで、次世代を担う保育者を育てる手伝いをする事ができた。</p>	
--	---	--	--

〔特記事項〕



○プログラミング指導



○年長組 体育指導発表会



○年中組 芋ほり



○森田陽子先生の運動遊び



○未就園児教室 にこにこクラブ
水遊び



○運動会 キッズアスレティックス



○徳育指導



○幼稚園説明会

<日本女子体育大学附属保育園>

区 分	事 項	結 果	自己評価
教育（保育）	理念	<ul style="list-style-type: none"> 健康な身体と心を育てるため、一人ひとりの園児の興味関心を大切にし、身体を動かして遊ぶ経験を日々の中で意欲的に取り組むことができた。 相手に対しての思いやりを持つことができるように、保育者が仲立ちとなり、子どもたちと関わった。 毎月の指導計画に添って保育をすすめ、評価・反省し、次のステップへ向かえるようにした。 園児が自ら体験して、表現力や創造力が育つよう、ダンス・劇・絵画制作などを行い、保護者と共有した。 	A
研究活動	研修 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでの研修がほとんどであったが、全員が多様な研修に参加し、日常の保育に活かせるようにした。 園内研修を行ない、それぞれが学んだことを文書として提出したが、意見交換には至らなかった。 期ごとの評価・反省を一人ひとり作成し、職員で共有した。 日本女子体育大学幼児発達学専攻の学生の実習生を受け入れることができた。 	B
募集	広報活動	認可保育園のため、世田谷区の決定による入園となるため直接の募集は行わないが、ホームページで毎月の保育のすすめなどを紹介した。昨年度に比べ、保育園見学者が多かった。特に0・3歳児クラスへの入園希望が多かったため、令和4年度は園児数が増えることが期待される。	A
社会貢献 地域連携	地域の方々との 関わり	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため、計画している地域交流が進んでいない。 東京都による高校生の職場体験を行った。日本女子体育短期大学より行なっているリトミックについては卒業生のリトミック指導者をむかえ、幼児クラスがおやつ後の時間を利用して体験することができた。 	B

〔特記事項〕



○年長組 山登り(高尾山)



○第1回卒園式

Ⅱ.財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

資産の部

(単位：百万円)

科 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
資産	固定資産	25,413	25,633	25,755	25,439	25,496
	有形固定資産	14,882	14,762	14,881	17,795	17,276
	特定資産	9,276	9,830	10,132	7,003	7,874
	その他の固定資産	1,255	1,042	741	641	346
	流動資産	2,636	2,678	2,983	3,243	3,279
合計	28,048	28,311	28,738	28,683	28,775	

負債の部、純資産の部

科 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
負債	固定負債	977	979	989	991	1,008
	流動負債	1,184	1,121	1,189	1,292	1,379
	計	2,162	2,101	2,179	2,283	2,387
純資産	基本金	26,859	27,378	28,170	31,194	31,339
	繰越収支差額	△ 972	△ 1,168	△ 1,611	△ 4,794	△ 4,951
	計	25,887	26,210	26,559	26,400	26,387
合計	28,048	28,311	28,738	28,683	28,775	

イ) 財務比率の経年比較

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
運用資産余裕比率	294.4%	297.1%	280.4%	216.0%	244.3%
流動比率	222.5%	238.8%	250.8%	251.0%	237.7%
総負債比率	7.7%	7.4%	7.6%	8.0%	8.3%
前受金保有率	241.2%	245.2%	230.8%	285.6%	246.6%
基本金比率	100.0%	100.0%	100.1%	100.1%	100.1%
積立比率	102.3%	100.0%	96.1%	75.5%	76.4%

*上記の表の金額は百万円未満を四捨五入しているため合計など数値が一致しない場合があります。
 なお、以下の表についても同様です。

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部

(単位：百万円)

科 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学生生徒等納付金収入	3,169	3,266	3,273	3,270	3,125
手数料収入	79	72	70	59	57
寄付金収入	10	12	36	40	29
補助金収入	814	873	1,186	1,062	1,037
資産売却収入	0	100	200	300	100
付随事業・収益事業収入	201	212	214	189	195
受取利息・配当金収入	102	106	105	95	104
雑収入	159	157	147	118	97
借入金等収入	1	1	0	1	1
前受金収入	964	914	985	1,027	1,139
その他の収入	1,575	2,134	2,425	5,068	1,271
資金収入調整勘定	△ 1,088	△ 1,116	△ 1,248	△ 1,122	△ 1,129
前年度繰越支払資金	2,216	2,324	2,240	2,275	2,933
収入の部合計	8,202	9,055	9,634	12,381	8,958

支出の部

科 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費支出	2,511	2,546	2,573	2,655	2,475
教育研究経費支出	930	981	1,144	1,150	1,070
管理経費支出	381	380	493	504	473
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	3	2	1	1	1
施設関係支出	148	286	497	3,524	45
設備関係支出	52	66	125	69	49
資産運用支出	1,836	2,533	2,537	1,563	1,996
その他の支出	80	82	78	64	129
(予備費)					
資金支出調整勘定	△ 62	△ 62	△ 89	△ 83	△ 92
翌年度繰越支払資金	2,324	2,240	2,275	2,933	2,813
支出の部合計	8,202	9,055	9,634	12,381	8,958

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：百万円)

科 目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育活動による資金収支	教育活動資金収入計	4,426	4,591	4,620	4,691	4,517
	教育活動資金支出計	3,822	3,906	4,207	4,310	4,018
	差引	605	684	412	382	499
	調整勘定等	△ 33	△ 87	138	26	133
	教育活動資金収支差額	572	597	550	408	633
	施設整備等活動による資金収支	施設整備等活動資金収入計	954	1,608	2,031	4,261
施設整備等活動資金支出計		1,550	2,479	2,622	4,692	1,697
差引		△ 595	△ 871	△ 590	△ 431	△ 924
調整勘定等		0	0	△ 228	226	9
施設整備等活動資金収支差額		△ 595	△ 871	△ 818	△ 205	△ 916
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		△ 23	△ 274	△ 268	203	△ 283
その他の活動資金収支計	その他の活動資金収入計	630	610	860	921	594
	その他の活動資金支出計	499	420	558	466	430
	差引	131	190	302	455	164
	調整勘定等	0	0	1	1	△ 1
	その他の活動資金収支差額	131	189	303	456	163
	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	108	△ 84	35	658	△ 120
	前年度繰越支払資金	2,216	2,324	2,240	2,275	2,933
	翌年度繰越支払資金	2,324	2,240	2,275	2,933	2,813

ウ) 財務比率の経年比較

科 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育活動資金収支差額比率	12.9%	13.0%	11.9%	8.7%	14.0%

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年推移

(単位：百万円)

		科目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,169	3,266	3,273	3,270	3,125
		手数料	79	72	70	59	57
		寄付金	10	11	12	10	11
		経常費等補助金	814	873	908	1,046	1,034
		付随事業収入	201	212	214	189	195
		雑収入	153	157	147	124	97
		教育活動収入計	4,427	4,591	4,623	4,699	4,519
		科目	決算	決算	決算	決算	決算
	事業活動支出の部	人件費	2,496	2,548	2,565	2,663	2,493
		教育研究経費	1,342	1,384	1,554	1,539	1,446
		管理経費	476	471	584	614	585
		徴収不能額等	6	5	7	6	6
		教育活動支出計	4,319	4,408	4,710	4,822	4,530
教育活動収支差額		107	183	△ 87	△ 123	△ 11	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算
		受取利息・配当金	102	106	105	95	104
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	102	106	105	95	104	
	事業活動支出の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算
		借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	102	106	105	95	104	
	経常収支差額	209	289	18	△ 28	93	
特別収支	事業活動収入の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算
		資産売却差額	4	24	26	2	0
		その他の特別収入	10	12	311	53	27
		特別収入計	14	36	338	54	27
	事業活動支出の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算
		資産処分差額	4	2	4	185	3
		その他の特別支出	0	0	2	0	129
		特別支出計	4	2	7	185	132
	特別収支差額	10	35	331	△ 131	△ 105	
	(予 備 費)						
基本金組入前当年度収支差額			219	324	349	△ 159	△ 12
基本金組入額合計			△ 121	△ 523	△ 794	△ 3,026	△ 270
当年度収支差額			98	△ 199	△ 446	△ 3,186	△ 282
前年度繰越収支差額			△ 1,086	△ 972	△ 1,168	△ 1,611	△ 4,794
基本金取崩額			15	4	3	2	125
翌年度繰越収支差額			△ 972	△ 1,168	△ 1,611	△ 4,794	△ 4,951
(参考)							
事業活動収入計			4,542	4,733	5,065	4,848	4,650
事業活動支出計			4,323	4,410	4,717	5,008	4,662

イ) 財務比率の経年比較

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費比率	55.1%	54.3%	54.2%	55.5%	53.9%
教育研究経費比率	29.6%	29.5%	32.9%	32.1%	31.3%
管理経費比率	10.5%	10.0%	12.4%	12.8%	12.6%
事業活動収支差額比率	4.8%	6.8%	6.9%	-3.3%	-0.3%
学生生徒納付金比率	70.0%	69.5%	69.2%	68.2%	67.6%
寄付金比率	0.3%	0.5%	0.9%	1.3%	0.8%
補助金比率	17.9%	18.4%	23.4%	21.6%	22.3%
経常収支差額比率	4.6%	6.2%	0.4%	-0.6%	2.0%